



DBKだより

発展途上国援助・ドンボスコ基金

2008年7月1日 創刊号

発行人：プッポ・オランダ

この人は、
乏しい中から

持っている生活費を

全部入れたからである

人を見る目は色々ありますが、この目で・あの目で・人とその人のすることを、評価する私たちは、残念ながら時と場合によって誤解したり、曲解したりすることがあります。しかし、いつさい間違った評価をしない目もあります。それは「神様の目」です。私たちも、神様が人とその行いを見る目をもって、人のことを見るならば、正しい評価ができるでしょう。

ルカの福音書(21章1〜4)によれば、ある日献金をしている人々を見ておられたイエス様は、多くの人々の考え方を變えるほどの、思いもよらない発言をされました。

お金持ちが、献金箱に多くの札やいい音を出すほどの大量の金貨を、見せびらかしながら投げ込んでいました。その額の多さに人々は驚いていました。そこへ突然、一人の未亡人がやって来て、ほんのわずかな

献金を捧げました。そこに居合わせた弟子たちは、果たしてそれは神様に捧げる献金に値する額なのか？と驚きました。でもその様子をご覧になっていたイエス様の発言は、弟子たちの考えとは全くちがったもので、彼らには、雷のように感じられました。

「実に私は言うておく。この貧しいやもめは誰よりもたくさん入れた。皆は有り余る中から献金したが、この人は、乏しい中から持っている生活費を全部入れたからである」と。



人間とその行為を見る神の目の素晴らしい深さが教えられ、人間を評価する基準が示された言葉です。人間こそ神様の生きた神殿なのです！この神殿に、ドンボスコ基金を通して皆さまが捧げてくださる

支援の価値は、おひとりおひとりの愛の犠牲にかかっています。

現代、人間としての尊厳を壊され、そのような生活を余儀なされている最も貧しい人々に、緊急に手を差し伸べないと手遅れになってしまうことは、新聞やテレビなどでよくご存じかと思えます。実際、ご協力してくださる皆さまの支援のおかげで、多くの人々が助かっています。

大きな金額を心から捧げてくださる方にも、また乏しい中から生活費のほとんどを捧げてくださる方にも、すべての人間を我が子として愛しておられる神様の目が等しく注がれ、祝福を与え、心の中の幸せを味あわせてくださるものと確信しています。まわりの人を幸せにすることで得られるものこそ真の幸福です。

願わくは神様が皆さまの心からのご支援を見て、報いとともに、感謝の言葉をおひとりおひとりの人生に、永遠に聞かせてくださるよう心から祈っております。

(代表者 プッポ・オランダ)



少年たちに未来を託す
ブッポ管区長

私たちの援助の対象となっている国々の 責任者との話し合い

二ヶ月ほど前に、日本からの援助をいただいている各国の担当者（管区長）と会合を持ち、話し合いました。まとめますと、

- ・ どの方々も心から深い感謝の意を表してくださいました。

- ・ 日本人の皆さまのご支援のおかげで、思いもよらないほど多くの人々が援助を頂き、助かっている、と目を輝かせて話して下さいました。

そのことを聞いて私も感動しましたが、同時に皆さまを誇りに思いました。

- ・ 寄付・援助・支援などを頂いている神父や修道士の方々には広い心があり、彼らが人々に献身的に尽くしていることも教えていただきました。

- ・ 犠牲を払ってでも支援をして下さる方が多くなれば、助かる人々も増えていきます。
- ・ すでに行っている善の活動も、現地の管区長の広い視野と調和に基づいた長期的な計画の中で、より実りの多い援助となります。

以上が各国共通の感想でした。

これまでも日本では多くの人々が、いくつかの国の大変な状況に関心を持ち、力を合わせて援助をしています。個人的に繋がりを持った現場の担当者に援助を送り、善を行うことは、素晴らしいと思います。

たとえば、ボリビアの倉橋神父様、スーダンのドナツティ神父様、ペルーのペトロ神父様、ソロモンの田中修道士やラップ神父様などを思うだけで感動を覚えます。そして、皆さまの素晴らしい心の表れであるその寛大さに、感謝し、祝福を祈っています。

しかし担当者の間では、これまでの協力方法の改善のための提案がいくつか出され、それらを当事者とその管区長と話し合っています。

修道者にふさわしい路線として、一人の宣教師のイニシアティブに留まらずに、彼が所属している共同体の合意のなかで、皆さまからの援助を最大限に活かしていくことこそ、最も妥当だと考えます。

それは、時と場合により予測できないことが起

こるからでもあります。たとえば、皆さまの記憶に新しいミャンマーのサイクロンや中国の地震、少し前に南アジアで発生した津波などで被害を受けた地域。そして、水を求めて移動を繰り返しながら生活せざるを得ないアフリカの多くのところから、援助を求める声が突然に届けられ、放っておけない状況が生じる時もあるからです。ですから援助の広がりが必要となり、善の及ぼす力が拡大されていきます。

このような事情を考慮し、理念にもとづいた発展的統合のために、「発展途上国援助・ドンボスコ基金」（DBK）をスタートさせた次第です。



倉橋神父とレナート施設の子供たち

これまで長い間、
サレジオ会の青少年救援活動に

関わってきて

川口敦子

こんにちは、お元気ですか！

私は二〇年近く「倉橋神父ボリビア青少年救援活動を支える会」のお手伝いをさせていただきました。「支える会」は倉橋神父様を良くご存知の方だけでなく、直接は知らない方もいらっしゃる、本当に多くの方々の善意によって支えられてきました。

その間、送金してくださる皆様とお顔を合わせることは一度もありませんでしたが、通信欄に書かれた近況を通して、私たちスタッフは一方的ではありませんが、皆様とは昔からの友人のような気持ちでおりました。私自身はボリビアに行ったことがありませんので、ボリビアの事情は本当のところ良く分かりません。しかし、日本で暮らす皆様の事情は隣人として感じてきました。寄付を受け取る側の人々はもちろんのこと、送ってくださる皆様との関わりを大切にしながら、この仕事に携わってきました。引越された方の住所を訂正するだけでなく、体調を崩されたと知ると皆で心配し、お元気になる時は皆で喜びました。退職されても年金生活の中で寄付を送り続けてくださ

ったり、また、今までのようには送れなくなりましたとのお知らせには、どうか気になさらないで欲しいと願いました。遠いボリビアで働く倉橋神父様のお身体を気遣いながら、ボリビアの人々のことを想ってくださる皆様のあたたかいお心に、いつも頭の下がる思いでした。

この度「支える会」は、「発展途上国援助・ドンボスコ基金」と名称が変わり、形も変わることとなりました。しかし、私たちと寄付をしてくださる皆様との関係は変わりません。もしかししたら、直接にお会いすることはないかもしれませんが、心は今までも同じに、強く繋がっていると確信しています。これからも、援助を必要としている世界中の人々に、皆様のお気持ちを届けする橋渡し役をさせていただきます。

海外で宣教をなさっていらっしゃる神父様や修道士の方々のご苦労は、日本にいては想像もつかないほど大変なものだと思います。どうぞ、変わらないご支援とお祈りをお願い致します。



今回、ボリビアに援助として送金した分の使い道 (US\$)

1. カリタス会が行っている福祉活動のため	5.000
2. サンタクルス県の「ドンボスコ庶民学校」の建設	28.000
3. 3つの養護施設のお米購入のため	9.000
4. 8人の子供の学費援助	5.600
5. 貧しい子供のための「無料食堂」とクリスマス会	1.100

発展途上国援助・ドンボスコ基金 (DBK) 運動のロゴはこうして生まれました

私たちが住んでいる地球はかけがえのない宝物です。でも残念ながら、地球上には争いや貧しさの問題があり、多くの人々が苦しんでいます。このような状況の中であって、私たちが手を取り合って協力し合い、世界的なつながり（5色の手）の中で、Love and Peace（愛と平和）を実現していきたいと願いながら、作りました。（制作者からの願い）



「発展途上国援助・ドンボスコ基金」を支えておられる皆さまへ

子どもが泣くと心が騒ぐ体験が皆さまにもあると思います。子どもや青少年が死ぬと心が痛み、神様にさえ「反発を感じる」ことがあります。貧しさや争いが溢れるこの世界では、人間が飢え死にしたり、栄養失調や薬不足で惨めに病んだり、傷ついたりしています。また教育を受けられず、人間らしく生きることができずに、奴隷のように扱われたりする危険のあるところでは、餌のために動物が争うように、人間もそうしている現実があります。そればかりか、自分たちの体重よりも重い武器を子どもに持たせ、「生きるために殺せ！」と命令することさえあると知らされると、人間の情けなさ、無力を味わい、「どうして?・・・どうして!・・・」という苦しい叫びが自然に



ソロモンの子どもたち

出てきてしまいます。大人の行う悪には怒りを感じても、子どもの行う「悪」に対しては、虚しさでいっぱいになります。

このような不幸を知っても、人によって反応が異なります。「仕方のないことだ」とか「どうでもよいことだ」と思い込み、あきらめて何もしない人がいます。しかし、これを読んで下さっている皆さまは違います。神様に反発を覚えるのではなく、神様が聞かせてくださることば：「自分と同じように人を愛し、自分がしてほしいと思うそのことこそ、人にしてあげなさい!」…このイエスのことばに耳を傾け、その人々の幸せと人間らしく生きるために犠牲を払ってくださる皆さまに感動を覚えます。

最初に述べた不幸の現実があるところに、私たちが愛の種を蒔いていけば状況が変わり、プラスにしていけると信じています。

悪は悪しかもたらさないということとは否定できないにしても、「愛が愛を起す」ことも事実です。しかも最終的に愛には、人間味や神らしさがあることを強く信じているのです。

皆さまの献身的なご協力によって成り立っている「ドンボスコ基金」は、この体験と実りを求めて創られた基金です。「もうだめだ!」と思わず、「その状況を変えていこう!」という決断の具体化です。「人間にとって人間は狼だ」という

思想に同意せず、「人間にとって人間は神の愛の道と具体化である」という理念で生きていきたい。長く日本に住んでいて、私は二つのことがよくわかってきました。

1. 日本人は人の心や身体の痛みを理解でき、人を助けたいと思う民族です。
2. 日本の「円」は、他の国々にとって何倍、何十倍もの価値があるお金です。



ペルーのパン工場にて

つまり、日本（人）では小さいと思える援助でも、発展途上の国で助かる人々は、思いがけないほど多くなります! 「ドンボスコ基金」は、前述の状況の国々では莫大な力で善をおこなうことができる援助活動です。皆さま、これを活かして多くの人々の力となっていきましょう。「ドンボスコ基金」は日本の中で使えるものではありません。世界中の困っている国々で使える援助です。また、援助をおこなっている神父様方などは、年齢、病気、人事異動と共に、今までの現場から

離れることがあります。そこにある必要性に変わりはありません。援助があまりにも《個人へ》のものになり過ぎると、もつと困った人々への支援になりたいことがあります。その意味も含めて、幅広く行われている援助活動の一つのチャンネルにまとめ、そこを通して援助をおこなう必要性が出てきました。「ドン・ボスコ基金」はそれを理解して、多くの方々の善意を一つにまとめ、皆さまの意向に沿って援助する国で配布をおこなう、現地担当者の管区長と、一生懸命尽くしている現地の神父・修道士・シスター・ボランティアの同意の上で、善を活かしていくことにしました。また、緊急時のためにも、送り先や目的をドン・ボスコ基金のスタッフと責任者に、できる限り委ねて頂きたいと思います。そうすることで、緊急援助が必要になった現場で、基金が速やかに且つ大いに活かされるからです。

福音書の教えがはつきりと言っていますように、金額の多少にかかわらず、温かい援助を下さる方々に心からの感謝の意を表したいと思えます。百円には百円を超える素晴らしい善の可能性が広がっています。どうぞ、心と可能性の勉めるままに多くの人々に差し上げる犠牲を捧げてください。

宮崎カリタス修道会 アルゼンチンに進出

世界に進出して、第12番目の国！

カリタス会が初めてアルゼンチンでの活動に挑戦！

神様と人間への愛に燃え、ニューフロンティア精神で、麻薬やスリの被害者にも加害者にもなっている子どもたちとの関わりの中で、家族の改革に努めていく。

身体に栄養を！ 心や魂に教育を！

着々と準備が整えられ、その地域で革命的ともいえる貢献の活動が、いよいよ今年の8月15日にスタートする。

さらなるお祈りとご支援を！



アルゼンチン スラム地区の一風景
子どもはずっと私たちのほうを見ていた

ストレンナ2008

ドン・ボスコの心をもって、

若者の全人的成長のために働こう

特に貧しく、恵まれない若者の

権利の促進に尽くしながら。



ソロモン諸島からのたより

いつもソロモン諸島での活動を支援していただき、まことにありがとうございます。

私たちが今、力を入れて活動をしている二つの分野があります。それは農業訓練場と山岳民族への宣教司牧です。現在、農業訓練場には120名の地元の青年たちがいます。彼らは私たちのところで、農業の技術を身につけ、自分たちの村で農業を広げようと励んでいます。

そして山岳民族の方々への奉仕に関しては、定期的に彼らを訪問し、霊的な面はもちろんですが、特に衛生上のことを指導しています。

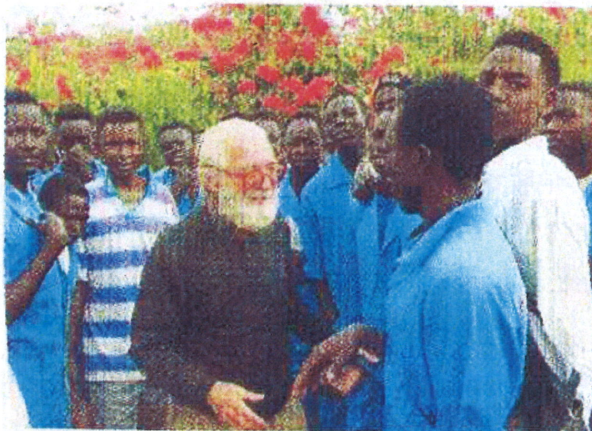


皆さんの支えによって、彼らは一人ではないことを感じ、また神様の愛を実感することができると私たちは信じています。皆さんのあたたかいご支援ありがとうございます。神様の祝福を祈りつつ・・・

ソロモンの人たちと
筆者（左上）

2008年6月6日
ミカエル・ラップ神父

私たちの援助はこう活かされています



スーダンで元気に働かれるドナッティ師



トラックに乗って通学する若者たち

首都ハルツームを中心に展開されている（その他の）社会支援

・ 5つの小学校に約500名の児童が集まっている
・ さまざまな社会活動として、青少年司牧、診療所、病院運営にあたるとともに、特に女性自立のための啓蒙推進プログラムを展開し、毎年5万人の人々の役に立っている

スーダンの首都ハルツームにある聖ヨセフ職業訓練学校

（15年前からサレジオ会が引き継いで、事業展開をしている）

・ 難民キャンプと少年院から来ている約650人の若者を対象としている
・ 井戸掘り、溶接、建設、自動車整備、一般機械、木工作业、電子技術、グラフィックデザインや印刷など8部門に分けて、教育している

発展途上国援助・ドンボスコ基金

2007年度決算書

(2007年11月1日～2008年3月31日)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	0	送金額	8,212,802
寄付金収入	11,675,703	モンゴル	1,667,762
#内訳(郵便振替)		ペルー	495,040
*1	1,140,081	アルゼンチン	500,000
*2	504,406	ボリビア	5,500,000
*3	3,450,000	コンゴ	50,000
*4	1,719,342	振替手数料	27,830
その他	4,861,874	送金手数料	39,240
		通信費	6,480
		事務費	62,423
		小計	8,348,775
		残高	3,326,928
		#内訳	
		振替口座	2,147,873
		ゆうちょ銀行	1,100,000
		現金	79,055
計	11,675,703	計	11,675,703

*1 & *2: 倉橋神父ボリビア青少年救援活動を支える会
 *3: ドンボスコチャリティーワールド
 *4: 明治学園

2008年5月27日

発展途上国援助・ドンボスコ基金

代表者 プッポ・オランド

監査報告書

発展途上国援助・ドンボスコ基金の2007年度会計は
 収入・支出とも公正かつ適切に行われたものと認めます。

2008年5月27日

発展途上国援助・ドンボスコ基金

監事 渡辺 新

監事 リチャード・スミス

* 皆様からいただいたご寄付のうちから 3%を振替手数料、送金手数料や通信事務費などに当て
 させていただきます。

4月1日から現在までに行っている主な援助は次の通りです。

- | | |
|------------------|-----------------------------|
| ①東ティモール・インドネシア管区 | 1, 000, 000 円 |
| ②ミャンマー | 1, 050, 000 円 (US\$10, 000) |
| ③スーダン | 1, 800, 000 円 (US\$16, 744) |

緊急報告

ミャンマーの子どもたちを学校に通わせたいが、学校はどこにもない！

ミャンマーのボー大司教は、今回のサイクロンで被害を受けた人々が、国際社会の援助をほとんど受けられずに、悲惨な状況が続いている、と訴えた。6月2日に新学期を迎える子どもたちに焦点を当てて考えてみよう。

何もかも流されて

ボートで約10時間かけてアイマ村とその周辺の村々を訪ね、生命をとりとめ、子どもたちを養うことに苦勞をしている人々に会ってきた。この地域では、すべての学校が倒壊した。アイマの子どもたちは、いまだにサイクロンの恐怖から逃れられずにいる。雨の日や夜には、あの洪水が再び襲ってくるのではと怯えて、泣き出してしまう子どもが大勢いる。

この地域は最初の2週間、カトリック教会からの援助の他には、ほとんど支援を受けていない、と大司教は語った。現在政府は、一人当たり2缶のごはんの缶詰を配給しているが、とても生き延びられる量ではない。また、政府からわずかな台所用品を持たされただけで、避難所を出て自分の村へ帰るように、と言われた住民たちもいる。しかし多くの村では住む所も食糧も水も無い。

これまでにカトリック教会は、ラブッタ地区の約20,000人の人たちに食糧、水、避難所の防水布、台所用品、医薬品などを支給してきた。大司教は「まず生きること、そして彼らの生活を軌道に乗せるために、私たちはこれからも援助を続ける。」と述べている。

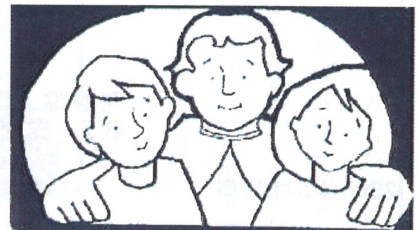
カトリック教会は、子どもたちを家族と再会させ、おもちゃや遊び場を提供することを担っている。大司教も子どもたちを出来るだけ早く学校に行かせるために全力を尽くす、と語った。

悲惨な状況の中でも、洪水で逃げ場を失った母親が、生後3ヶ月の子どもを屋根の上に置いて助かった話や、家族とはぐれた5歳の男の子が、増水で立っていられなくなった時に、自分の犬にしがみつき、陸地に運んでもらった話などを聞くことができホッとした。

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替 口座番号 00100-4-560725

加入者名 発展途上国援助・ドンボスコ基金



DBK だより 創刊号

2008年7月1日

発行人：プッポ・オランド

発行所：サレジオ会管区本部
〒160-0011

東京都新宿区若葉 1-22-12

☎：03-3353-8355

Fax：03-3353-7190

Eメール

dbk_sdb-gia@donboscojp.org

編集後記

★皆さんと援助されている人たちと私たちとの繋がりをより深めるために、せめて年に二回は、報告とお礼を兼ねた機関誌を出そうということになり、素人集団が手作りで作り上げました。「DBK だより」のロゴマークもまさに手作りで素朴なものを採用しました。製作者が願うように、私たちの地球が愛と平和で満たされ、世界中の人々たちが幸せになってほしいものです。

★次号からは、私たちだけでなく、皆さんからのお便りをもっと掲載していきたいと思いますので、ご意見、ご感想を左記までお寄せください。よろしくお願いします。

編集責任者：河合恒男（管区財務）